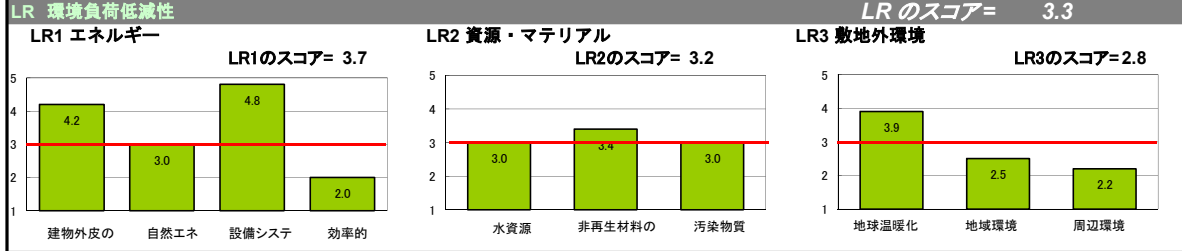
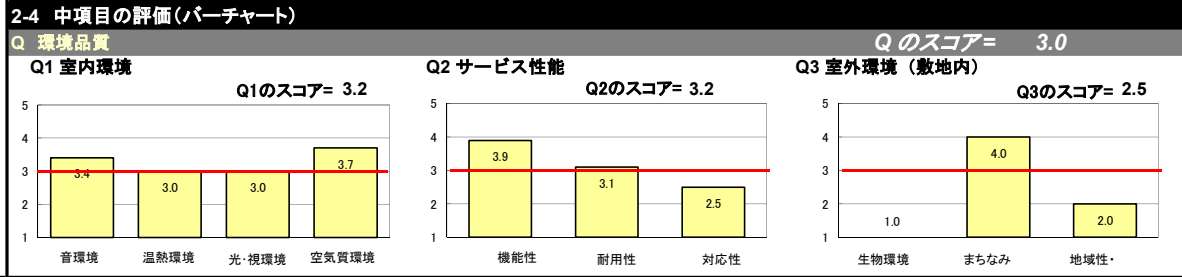
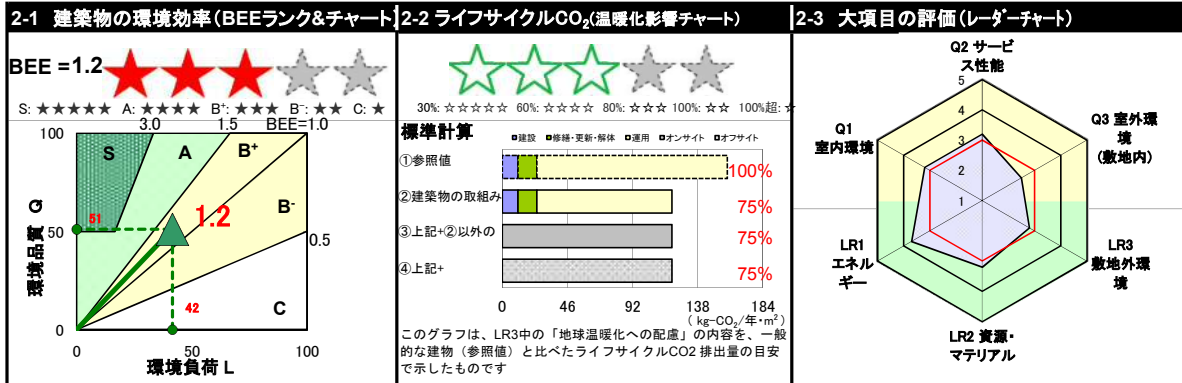


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	セントレアホテル新棟建設工事	階数	地上11階
建設地	愛知県常滑市セントレア一丁目1〜5	構造	S造
用途地域	準工業地域、工業地域、防火指定なし	平均居住人員	328 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2017年4月1日
敷地面積	1,396 m ²	作成者	早矢仕 英治
建築面積	665 m ²	確認日	2017年4月1日
延床面積	7,304 m ²	確認者	早矢仕英治



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

3 対応性・更新性					3.0	0.29	2.3	2.3	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり					-	-	1.6	1.6	-	0.50
1 階高のゆとり					-	-	-	2.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					-	-	-	1.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	空港島の景観に配慮した外観		4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30				2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50				-
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性										3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			非住宅部:[BPI][BPI _m] = 0.88		4.2	0.30				4.2
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化			B _{EI} =0.71		4.8	0.30				4.8
4 効率的運用					2.0	0.20				2.0
集合住宅以外の評価					2.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					1.0	0.50				-
集合住宅の評価					-	-				-
4.1 モニタリング					-	-				-
4.2 運用管理体制					-	-				-
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.2
1 水資源保護					3.0	0.15				3.0
1.1 節水					3.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.67				-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.33				-
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.63				3.4
2.1 材料使用量の削減			SM490材採用		4.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-		3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②			3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ボード 壁紙		4.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					2.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	鉄骨造の為、外壁は取り外し可能		4.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68				-
1 消火剤					-	-				-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50				-
3 冷媒					3.0	0.50				-
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		①	CO2排出量は一般程度		3.9	0.33				3.9
2 地域環境への配慮					2.5	0.33				2.5
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					2.2	0.33				2.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	0.33				-
2 振動		独自			3.0	0.33				-
3 悪臭					3.0	0.33				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					1.9	0.40				-
1 風害の抑制					1.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					3.0	-				-
3 日照障害の抑制			日影規制による高さ制限に余裕あり		4.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					1.6	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					1.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 セントレアホテル新棟建設

計画上の配慮事項	
総合	新棟は大切なお客様をおもてなしする「奥の間」となり、既存棟のデザインモチーフを客室内に設け、デザインの統一による一体感にてセントレアホテルブランドを一層印象付けることを目的とする
Q1 室内環境	客室内への音の侵入を減衰させる為、T3同等程度のサッシを設け、宿泊者の快適性を重視した設定としている。
Q2 サービス性能	客室の広さと天井高さを確保することにより、宿泊者へ居心地のよい空間を提供することを重視している
Q3 室外環境(敷地内)	空調機室外機を屋上に設けることにより、歩行者への温熱環境を緩和させている
LR1 エネルギー	外壁及び屋上の断熱材の厚み及び仕様を向上させ、建物の熱負荷を軽減させている
LR2 資源・マテリアル	節水コマを設置した洋便器を採用することにより、水資源保護に貢献している
LR3 敷地外環境	建物1階に管理用駐車場を設け、建物西側には乗入+減速帯を設けることで交通負荷の抑制に貢献している
その他	特に無し